

令和3年度第1回守山市市民参加と協働のまちづくり推進会議

日時：令和3年6月1日（火曜日）午後6時30分から午後9時00分まで

場所：守山市民交流センター 1階 交流室

委員：

No	委員区分	団体名等	氏名	備考
1	1号委員	市民（自治会）	石田 俊治	
2	1号委員	守山商工会議所	葭本 勝利	
3	1号委員	市民（自治会、市民活動）	金野 弘子	
4	1号委員	市民（市民活動）	根木山 恒平	
5	1号委員	市民（民生委員）	西井 泉	
6	1号委員	市民（市民活動）	遠藤 由隆	
7	2号委員	龍谷大学政策学部教授	只友 景士（委員長）	オンライン出席
8	2号委員	しがNPOセンター理事	西川 実佐子（副委員長）	座長
9	3号委員	市民（公募）	宮川 美紀子	
10	3号委員	市民（公募）	菅井 隆雄	

発言者	会議内容（要旨）
只友委員	議事（1）令和2年度の市民参画事業にかかる取組について（報告） このコロナ禍でも諦めずに市民参画事業を実施できたことは評価する。 わたしは初めて委員に就任するため、この会議が発足した平成23年からの経緯と評価軸を教えてほしい。 わたしも初めて委員に就任するため、継続で就任されている委員からこの会議の印象をお聞きしたい。また、どなたが初めて就任されたかお聞きしたい。 本会議の経緯を説明すると、平成24年に提言書をまとめ、この提言書に基づきこれまで本市の市民参画手法について実施してきた。例えば、市民懇談会をまとめるファシリテーター養成講座の開催、住みやすさ指標の策定、庁内でのまちづくり推進本部会の構築等を実施してきた。市民参画手法はたくさんあるが、こういった手法が有効であるかこれまで議論していただいていた。 委員を紹介する。 石田委員は、玉津学区長として、自治会の視点からご意見をいただきたい。 葭本委員は、商工会議所の代表者として、地域経済の振興という視点からご意見をいただきたい。 金野委員は、自治会活動および市民活動団体活動に取り組んでおり、両方の視点
遠藤委員	
根木山委員	
事務局	

	からご意見をいただきたい。 根木山委員は、特定非営利活動法人碧いびわ湖で、特に環境系の事業に取り組んでおり、市民活動の視点からご意見をいただきたい。 西井委員は、民生委員として、福祉的な視点からご意見をいただきたい。 松井委員は、もりやま青年団の副団長として、社会活動の視点からご意見をいただきたい。 遠藤委員は、自治会や市民活動として新たに法人を立ち上げて事業に取り組んでおり、市民交流センターのアドバイザーとしてもご意見をいただきたい。 只友委員長と西川副委員長はこれまでも委員長と副委員長として会議に参加いただいております、引き続きお願いしたい。 宮川委員は、今回２期目の公募委員であり、びわ湖守山・自転車新文化推進協議会の会長として、市民活動の視点からのご意見をいただきたい。 菅井委員は、今回初めての公募委員であり、市民懇談会およびファシリテーターの養成講座にもご参加いただいております。市民参画の手法に関心を持たれ、今回応募されたため、これらの経験からのご意見をいただきたい。
西川副委員長	前回から継続は葎本委員、金野委員、只友委員長、わたし、宮川委員である。この中から、事務局の説明を聞いて、ご発言いただきたい。
金野委員	わたしは設立当初から本会議に参加し、住みやすさ指標の策定や守山市市民参加と協働のまちづくり条例を提唱した。 また、行政と市民の間をつなぐ中間支援が大事だと思い、NPO 法人ふれあいネットを立ち上げており、市民参画事業について学びたいと思い参加している。この会議は市民の思いを行政へ届けることが役割だと思う。
葎本委員	守山市ではこれまで自治会や市民活動団体が、まちを良くしていくために行政と協力してやってきたが、自治会の高齢化もあり、次世代への引継ぎが必要となってきた。わたしたちの役割は若い世代への架け橋になることだと思っている。 実は発信していないだけで潜在的にまちづくりに関わりたいと思っている人は多く、市民懇談会は無作為抽出でこちらから参加を依頼するため、潜在的な思いを持っている人が参加し、意見を発信できる場である。市民懇談会をまとめるのがファシリテーターで、市民懇談会・ファシリテーターは非常に有効であるため、守山学区で同様に「わがまちミーティング」として開催された。話し合いの中で市民が思っていることを市政へ反映していこうというのが今までの流れである。 また、住みやすさ指標についても本会議で作成しており、自治会の役割、市民の役割、行政の役割などを客観的に評価するという視点で構築している。初めて見る方は、なぜこの質問を設定しているか、疑問を持たれる項目があるかもしれないので、これまでの経緯をご確認いただきたい。

宮川委員	本会議で決まったことを、行政は形にしようと一生懸命取り組んでくれている印象である。例えばパブコメの看板を作成する等、市民の声を聞こうと努力していることが見られる。 残念なのは、コロナの影響で令和２年度に市民懇談会を開催できなかったことであり、本来であればその経緯を本会議で議論し、改善していくべきだと思うため、今年度は実施できるように議論していきたい。
只友委員長	守山市の市民懇談会のように、無作為抽出で市民が発言する会議の場を設けているのは全国で４００か所くらいである。この方法は各地で広がっており、守山市の取り組みは先進的な手本になると思っている。 また、菅井委員が、市民懇談会、ファシリテーター養成講座の受講を経て、今回まちづくり推進会議の委員に就任してくれたことが非常に嬉しい。市民懇談会をきっかけにまちづくりに積極的に参加してくれる人が広がってほしい。
西川副委員長	守山市は、例えば市民懇談会の参加者を無作為で選ぶ方法を、単発ではなく継続して実施しているところが良い。しかし、令和２年度に市民懇談会を実施できなかったのは残念である。諦めるのではなく、工夫して実施できる方法を検討していきたい。 各委員からこれまでの経緯をお話いただいたが、事務局から見てもらいたい資料があれば委員へ送ってほしい。
根木山委員	菅井委員から、市民懇談会に関する意見を聞きたい。
菅井委員	わたしは、自転車を活用したまちづくりの市民懇談会に参加した。参加の理由は、日曜日で参加しやすい日程であったことと、通勤でも自転車を利用していることや、休みの日にビワイチを楽しんでいる人をよく見かけるため、守山市が自転車のことをどう考えているのか興味を持ったためである。 その後ファシリテーター養成講座に２回参加した。養成講座ではファシリテーターとしてだけでなく、知らない人同士が集まった中での自己紹介の方法や話のまとめ方などを学ぶことができ、大変役に立ったと感じている。 自分がこの場に参加できたのは、これまでの市民参画の取り組みが実を結んだ結果だと感じるので、ほかにもまちづくりに興味を持つ人が増えてほしいと思う。
金野委員	市民交流センターの管理運営方法が今年度から変わったが、このセンターは市民活動団体の拠点となるため、しっかり考えていきたい。 議事（２）令和３年度の市民参画事業にかかる取り組みについて

石田委員	各市民参画事業について、自治会との関わりが出来るような形作りがあればよいなど感じる。 また、住みやすさ指標アンケートについて、無作為抽出で行うとされているが、市街化地域とそうでない地域では、地域における人との関わり方が大きく違うと感じており、単に無作為抽出を行うだけではなく、居住地域も考慮した上で抽出することはできないか。
事務局	市民参画事業に係る自治会への周知については、自治会長への案内文を始め、回覧や掲示板等含め、引き続き自治会にご協力賜る中、取り組んでいきたい。 無作為抽出については、これまでも様々な学区や年代で幅広く行ってきたが、今回のアンケートにおいても、ご意見いただいた内容を含め、抽出方法については偏りのないように心がけていく。
遠藤委員	石田委員の意見はとても大事だと感じる。健康など地域が福祉に与える影響は大きいと感じており、地域性と健康は密接に関係していると思う。地域差が住みやすさの実感に与える影響もあると感じるため、考慮する必要があると感じる。
石田委員	フィンランドが4年連続幸福度1位と聞いているが、住まい、環境、健康、福祉など全てを含めて考えた時に幸せと思えるかどうかについては、生活、地域、家庭などが非常に大事な要素であり、様々な要因が複合的に関係するのではないかと感じる。このアンケート結果が、「人として幸せである」と実感が持てるまちづくりに繋がっていくとも思うので、アンケートの項目については、複合的な要素についても今後検討してもらいたい。
只友委員	このアンケート項目は、まずその人が幸福かどうかを問い、どのような状況であれば幸せと感じるかを問う流れになっている。幸せだと感じる人にはどのような傾向があり、そうでないと感じる人の要因は何かを調査し、分析できるよう設定しているとご理解頂ければと思う。
根木山委員	守山は古くから住んでいる人と新たにきた人が混在していて、新たにきた人が相当数いると感じている。そのため、ソーシャルキャピタル、つまり社会や地域のコミュニティの中でその人がどういった生活をしているのか、今後のアンケートに項目を追加してはどうか。生活の拠点が地域内か市外か、人によって異なると思うため、その視点で調査すると、自治会活動や市民活動を今後どのように進めていくか検討するための基礎データとして活用できると思う。
只友委員長	本来であれば根木山委員が発言するようなアンケートの項目を入れたかったが、行政側の項目の見直しや施策への反映等を考慮され、今の形になった。

	全国各地でも幸福度調査の結果をどのように扱うか苦慮されているため、ぜひ守山市は手本となるような取り組みを行ってほしい。
西川副委員長	アンケート項目を見直した経緯についてはこれでも報告を聞いているため、今回はこれで実施してもらい、また結果報告を楽しみにしている。
石田委員	石田町はもともと 60 戸の農村集落であったが、現在は若い世代の転入があり、650 戸になったため、世帯の増加に伴うニーズの多様化を痛感している。行政も同様に市民から様々な意見を出されると思うが、市民の幸福度が高いまちづくりのために、どれも課題だと受け止めて真摯に対応してほしい。また、この会議に参加するにあたり、多様化する自治会の現状を理解してもらうことが大事だと感じた。
金野委員	石田委員は自治会長、さらに学区長にもなり、真摯にまちづくりに取り組まれているのがわかる。わたしも自治会長代行として 2 人でタッグを組んで頑張っていきたい。
西井委員	広報を毎回しっかり読んでいるが、守山学区のわがまちミーティングや市民ワークショップが開催されていることは知らなかった。これまで福祉のことに一生懸命取り組んでいたが、これをきっかけにまちづくりのことを勉強したいと思う。 また、もり・まっちを初めて知った。
事務局	もり・まっちは市民活動手引書で、今までは市民活動を既に始めている人を対象に作成していたが、昨年度から、市民活動に興味を持った人が実際に市民活動を始めきっかけになることを目的に作り変えた。市民活動の拠点となる施設の案内や市民活動への参加の方法等を掲載している。地区会館や公共施設に配置している。
西井委員	表題が「市民活動」と大きく表示されているため、興味のない人は手に取りにくい印象はある。
菅井委員	守山市はまちの中心に買い物できる店があり、全国的にも住みやすい印象はある。住みやすさ指標のアンケートについて、例えば「買い物ができる場所が近くにあるか」や「緑が多いと感じるか」は、当然「そう思う」に丸をつける人が多くなるだろう。そのため、市全域だけでなく地域単位または隣近所など小さなところから意見を聞くのが大事ではないか。
只友委員長	わたしは子どもが生まれてから地域との繋がりが強くなった。生活の変化と地域との関わり方をアンケート結果から分析できればと思う。 また、コロナによる制約はしばらく続くため、オンラインを活用して会議を開催

	するなどデジタルトランスフォーメーションをする必要がある。一方で情報弱者を取り残さない工夫を検討していただきたい。
宮川委員	資料の中に、市民懇談会のフィードバックのため、参加者に情報発信を行うとあるが、守山市の公式 LINE アカウントを作ってはどうか。 また、パブコメについて、情報発信や意見収集の方法に工夫を加えるとあるが、具体的に検討されている内容があれば教えてほしい。 また、今年度市民ワークショップを開催するとのことであるが、ファシリテーターは実際に経験しないと身につかないため、養成講座を受けた市民や職員にぜひファシリテーターとして市民ワークショップに参加してもらいたい。 また、コロナの影響で令和 2 年度は屋台村を開催できなかったが、市民交流センターを拠点に活動している市民活動団体にとっては、ほかの団体と交流できる大事な機会だと考える。10 名程度の小さな規模で開催してもよいと思い、案をペーパーにまとめてきたので、後で参考にしてほしい。
事務局	市民懇談会のフィードバックについては、市ホームページへの掲載を各担当に任せているが、掲載を徹底していきたい。LINE の活用については安全性の問題なども踏まえて検討していく。 また、今月の市民ワークショップは、急遽開催が決定したこと、参加人数が見えないこと、コロナの影響等で、今回は職員ファシリテーターのみで実施するが、今後は市民ファシリテーターを積極的に活用していく。 また、パブコメの周知方法については、昨年度の会議の意見を踏まえて改善し、市民からの意見がかなり増えた。しかし、数ある項目の中で関心の高い項目とそうでない項目の差があったため、内容の見せ方を工夫していきたい。 また、市民交流センターの屋台村については、市民活動団体の繋がりを大事にするために大事なことであるので、宮川委員の案を参考に構築していきたい。
金野委員	市民交流センターの屋台村は拠点として重要な役割があるため継続してほしい。
遠藤委員	本会議の位置づけは市民参加と協働のまちづくりの検証であるが、住みやすさアンケートが成果指標になると思うので、その結果を報告してほしい。また、平成 23 年に会議を設立されてからの経緯を一覧にして示してほしい。
西川副委員長	最初は市民がどうすればまちづくりで活躍できるか、また、どうすれば市民がまちづくりに参加しやすい環境を作れるか、市長からの諮問に答えるために設立されたと思う。 市民参画の手法についてこれまで議論してきたが、一覧にまとめるのは難しいかもしれない。事務局は過去にまとめた提言書を後日提出すること。

根木山委員	これまで本会議において、自治会や市民活動団体等、市民の自主的な視点の議論はされてこなかったのか。
西川副委員長	市民が自主的に動く際に、行政としてはどのように関わることができるか検討してきた。
遠藤委員	会議の役割や目的を規則の中でしっかり決めておく必要がある。何を成果とするのか、何を目的とするのか共通意識を持って会議に参加する必要がある。
只友委員	もともとは自治会などが担ってきたことを行政が担うようになったが、ニーズが多様化したため、自治会や市民活動団体もまた活動する時代になった。市民協働課はその新しい時代に対応した取り組みをしていかなければならない。
	(了)